

ゆめごよみ風だより 109号

INDEX (見出し)

- ・ 牧口さんの「足あと」から芽吹いた希望
- ・ 日本からガザへ届いた思い-ガザ地区で実施した障害者への現金給付
- ・ 能登半島地震、復興に向けて
- ・ のとからの風展 報告
- ・ リレーエッセイ 災害と障害者 第82回
- ・ ゆめ風30年企画
- ・ 応援団からこんにちは! vol.11
- ・ カンパをいただいた団体/事務局の動き
- ・ 個人見舞金をお届けします
- ・ 会計報告
- ・ 各地からの風だより

■ 牧口さんの「足あと」から芽吹いた希望

前事務局 長 橘高 千秋

希望の場所、自立の家がのうなつてもたんやろ。

20年かけて建てた作業所、あつという間につぶれてしもたんやろ

人間は、自然の力にかなないっこあれへんけど

こんな時こそ人の力を借りよ、

人間なんやから。

そして、人と人との絆をむすべる豊かな場所を

一日も早よ創ろう!

牧口 一二さんが阪神淡路大震災の日に書き、ゆめ風基金創設を決意した呼びかけ文の冒頭だ。

これを目にした 永 六輔さんの発案で、大阪の芸人さんたちが一節ずつ語り継いだテープを制作

し、「お声拝借テープ」と題してゆめ風基金を世に伝えた。牧口さんが松葉杖で一人一人訪ねて

収録した「被災障害者を助けたい」との強い願いが込められた詩だ。

9月26日朝 牧口さんは87歳で亡くなった。

4月23日に、脳出血で倒れ入院し治療を受けていたが、周囲の願いもむなしく旅立ってしまった。

5か月にわたる入院生活は、コロナ感染防止で面会が厳しく制限され、会いたい者たちにとって

ひたすら退院を待ちこがれる日々だった。

入院中、牧口さんの友人たちと話すとき、そこに登場する牧さんはとても楽しそうだった。一方、

基金創設者としての牧口さんは、いつも緊張感を持ち続けていたのだと改めて思う。牧口さんは、

会議でよく話していた。「ゆめ風のお金は、みなさんからの預かりものやから、使い方は、寄付くださった方の願いを、いつも頭においておこな！」。税金の使い方を間違えている政治家や官僚に一番伝わってほしい言葉だ。

阪神大震災から2年後の座談会で、牧口さんは語っている。

「災害時や緊急時には障害者は脇においやられる」「世の中全体が大変なとき、あとまわしになる。障害者はほっとかれる」「そやけど、障害者は弱だけやない。障害者が西宮、神戸でいち早く地域で救援活動を始めたことはすごい励みやった。それがゆめ風基金をつくろうと思ったきっかけやった」。

牧口さんは、障害者自身による救援活動を希求し続けた。50年前の編著書「われら何を掴むか | 障害のプラス面を考える」からずっと世に問うてきた命題が障害者観の変革だった。牧口さんはこうも語っていた。「障害者のいない世界を想像してほしい。それはなんと味気ないものだろう」。

牧口さんは、また、若い世代に希望を託していた。牧口さんが発案し、20年前から力を入れた活動として「いのちと防災を考えるゆめ風中学生プロジェクト」がある。屋間地域にいて判断力も体力もある中学生が障害者と共に避難体験する取り組みだ。これまでのべ5000人もの障害者と中学生が参加し、貴重な体験が積み上げられてきた。初めて障害者と話し、車いすを担いで避難体験をした中学生たちの言葉のみずみずしさに、私たちは手ごたえを感じた。その結果は、牧口さんの講演と共にDVDに収められている。

牧口さんがいたから、ゆめ風基金は誕生し、ここまで続けてこられた。

いま、牧口さんはいないけれど、その足跡には無数の芽吹きが見える。

牧口さんの講演のタイトル「歩けないけど歩いてる」を思い出す。

牧口さんからどれほどうきうきする言葉が生み出されたことだろう。

「ちがうことこそええこっちゃ」はその筆頭だ。

たくさんの灯りとともした牧口さん。まだまだ話したかった。



もしボクに「障害」がなければ

ナントつまらない奴だったことか、ボクに彩を与えてくれたのは

障害者人生だからにちがいない

## ■日本からガザへ届いた思い-ガザ地区で実施した障害者への現金給付

内海 旬子 特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン パレスチナ事業担当

パレスチナのガザ地区は2023年10月以来のイスラエル軍による無差別攻撃で、少なくとも死者42,010人、負傷者97,720人の危機的状況に陥っています。

ピースウィンズ・ジャパンは、本部を広島に置き、紛争や災害の被害を受けた人びとへの支援に取り組むNGOです。ガザでは、2015年より主に子どもや若者の支援事業を実施してまいりました。その活動で知り合った車いす利用者のアヤさんから、今年3月、「自宅を破壊されて命がけで逃げてきた。他にも大勢の障害者が一緒にいる」と支援を求める連絡がありました。私たちは、アヤさんたちへの支援を模索して、ゆめ風にたどり着きました。

ガザの避難民の生活は、何もかもが不足しています。障害があるために必要な物資の入手が

極めて困難なうえ、一人ひとり必要なものが違うので、それぞれが現金で対応できるのが一番です。そこで、アヤさんに、現金給付を実施できる団体として、「パレスチナ障害者ユニオン（以下、ユニオン）」を紹介してもらいました。

ユニオンは、1991年から活動する障害者の当事者団体で、避難した障害者のデータを持っていました。私たちは、ユニオンと電話やSNSで連絡を取り、2度にわたって最も厳しい状況にある障害者134人に現金が届けられました。この支援で、車いす修理、食料や医薬品の購入などができたと安堵の声が届いています。

アヤさん同様に車いす利用者で、事業を主導したユニオンのアイマンさんからのメッセージです。

「日本でガザの障害者のために寄付金が集められたと聞いたときのことは忘れられません。ガザの障害者たちに『日本にはあなたたちを支援し、応援している友人がいます』と伝えることで、物質的な利益以上に精神的なサポートができました。ゆめ風基金との活動を誇りに思います」

ユニオンによると、今も10,930人の障害者が極めて厳しい避難生活を送っているそうです。私たちは、これからもユニオンと連絡をとりながら活動してまいります。



現金を手渡すユニオンのアイマンさん（写真中央、車いすの男性）

## ■能登半島地震、復興に向けて



特定非営利活動法人スペース Be 理事 山崎 洋一

新潟市西区で就労継続支援B型を2カ所運営。内職作業からの脱却を目指し、様々な企業との連携し賃金向上を目指しています。

新潟市の就労継続支援B型スペース Be と申します。作業は豆乳シフォンケーキなど菓子製造の食品部門と清掃や農作業など便利屋のようなワーク部門があります。

令和6年1月の能登半島地震での新潟県内各地の震度は長岡市で震度6弱、新潟市西区では震度5強でした。

私共のある西区寺尾地区では、日本海側に面した標高約20 mの砂丘を造成して出来た地域から、その下の沼地を埋め立てて出来た地域に地盤がすべり、砂と水が噴き出す液状化被害が広く発生しました。



小さな団体の開く催しなので、来場者は百数十人と少ないのですが、来た人たちは写真パネルを見たり現地の人たちの話を聞いたりすることで、ずいぶん心を動かされるようです。私たちも能登の事業所の人たちの生の声を聞くことで、強く心をゆさぶられます。新聞記事を読んだりテレビを見たりして感じるものと、まるで違います。生の声の力をヒシヒシと感じます。

「のどからの風」展は8月の金沢市での開催からスタートして、9月には小松市で開催し、十一月には白山市でも開く予定です。その内容は、二四か所の事業所の被災写真パネル、約百枚の展示、能登の事業所の人たちの報告、事業所の商品の販売です。

微力な私たちにできることはたかが知れていますが、「のどを忘れない」の思いを胸に、これからも様々な活動をさぐっていかうと思っています

## ■リレーエッセイ 災害と障害者 第八十二回

### ぼくの前風景と防災を考える



ふくしま よしひろ  
福島 義弘

ぼうじん こうどう しょうがいしゃおうえん  
NPO法人おおさか行動する障害者応援センター

1967年生まれ。生まれながらの脳性まひにより小学校から高校まで支援学校に通う。その後、香川県善通寺市にある四国学院大学へ進学。福祉を学びながら一人暮らしを満喫する。卒業後、就職のため大阪での生活を始める。

ぼくの故郷は徳島県鳴門市。渦潮で知られるこの町には淡路島との間に高島という小さな島がある。ぼくが生まれたその島は、高校生になってようやく市バスが来るようになった田舎町だ。街灯もなく陽が沈むと夜の静寂につつまれる。そんな土地にあった実家は、かやぶき屋根をまとい、薪で沸かす五右衛門風呂。もちろんトイレは水洗ではない。日本昔ばなしに出てきそうな家でぼくは幼少期を過ごした。

徳島県は秋になると台風がやってくるのは当たり前のこと。台風が近づくと、父は仕事を早めに切り上げて帰ってきた。家に戻るやいなや家の玄関とすべての窓に外から板を打ち付ける。光が差し込まなくなった居間ではロウソクを傍らに置き、家族全員が台風の通過をひたすら待つ。不謹慎このうえないが幼いぼくは、この非日常にどこか密かなドキドキ感を覚えていた。

いざ台風がやってくると裏山から雨水が流れ出し、床下をゴウゴウと音をたて流れていく。実家の三軒ほど隣が谷間になっている。だから「ウチに鉄砲水はこない。大丈夫だ」と父が話していたのを思い出す。なんの根拠もない父の言葉にぼくは安堵していたわけだ。防災を語る時重要であるライフラインについて、当時耳にした記憶があまりない。ロウソクの灯りで停電をしのぎ、トイレには水道の必要性がなかったからだろうか。

あれから半世紀近い時間が流れた。気候変動の影響と思われる自然災害の規模は大きくなっていく。一方で人の暮らしも大きく変わった。日々、テクノロジーは発展を続けている。ぼくもその恩恵を受けていることには間違いない。電動車いすの普及で外出は格段にしやすくなった。公共交通機関もエレベーターやホーム柵などの導入が進められている。安全に快適に暮らすことのできる日常が、ぼくの周りにはあふれている。

そんな生活の中で、ぼくは年を重ねるごとに子どもの頃に見て触れていた暮らしに好奇心をくすぐられるようになってきた。ノスタルジーに近い心境なのかもしれないのだが…。数年前から冬の休日にはベランダに置いた七輪で炭に火をお越し、部屋の片隅で火鉢に手をかざす。当初はス

ムービーに火を起すことができなかったが、ユーチューブ動画のおかげで火起こしも短時間でできるようになった。この光景をみて初めて介護に入るヘルパーにはいつも驚かれる。我ながらヘンな障害者やなと思う。だがガスや電気が使えなくなった時、この方法はなにかしら役立つのでないかと考えたりしている。

そして最近興味を持ち始めていることが一つある。それはコンポストだ。生ごみを土に埋めて微生物の働きで分解するというものだが、まだまだ勉強不足でやれていない。詳しい方がいらっしやれば教えていただければうれしいなと思っている。さらにこれを応用したコンポストトイレというものもあるようだ。これこそ災害時には大いに必要となりそうな予感を持つのはぼくだけだろうか。

こんなふうに興味本位で自分がおもしろそうだと思うことと災害時に役立つかもしれないと感じることをこじつけてみるわけだ。しかし実際の災害現場では一刻の猶予もないであろうし、想定外の出来事も次々と現れることだろう。地震や津波、豪雨災害による被災体験のないぼくにできることは何なのか、と自問してみる。

おそらくそれは被災体験をもつ人の話にしっかりと耳を傾けることだろう。何回も何回も話を聞いて、自分の中で災害時のシミュレーションを繰り返してみることだ。体験談を聞いて災害を考えるのはとてつもなく怖いことでもある。正直、テレビやネットで流れる映像に目をそらしてしまう自分がいるのも事実である。災害に合わないで過ごせるという保証はどこにもない。むしろ災害に遭う確率のほうが高いと思って生活するのが望ましいように思う。

とはいえ、ぼく自身の生活をふり返って防災の準備ができているとはいえない。食糧や飲み水の備蓄は十分なのか、避難場所の確認はできているか、どうやって誰と避難するのかなど数えていけば、中途半端にしか準備できていないことばかりだ。長い間中学生プロジェクトに関わらせていただいているのに恥ずかしいかぎりだ。

あらためて自分自身の生活と防災を考えると、できることから準備に取り掛かることからしか始められない。必要以上の恐怖心に駆られるのではなく、生活の中で興味や関心を高められるものを取り入れつつ考えていけたらいいのかなと思う。気負わず、いつやってくるのかわからない災害に備えたい。

## ■ゆめ風30年企画 第4回

2025年(来年)は、阪神淡路大震災から30年、ゆめ風基金発足30年を迎えます。過去の災害を忘れず伝え続けるため、発災当時、救援活動の中心として活動されていた方々に当時の様子を振り返っていただきます。

### 人とのつながりという財産

共働作業所シティライト管理者 山田 弥生



阪神淡路大震災から来年で30年を迎えるにあたり、あの日私はどうしていたか思い出してみたい。

1995年1月17日、神戸市北区におり、職場のある兵庫区や他区にくらべ被害は少なく、ライフラインも停電が数時間しただけでした。当時3年生と4年生だった子どもたちも怪我もなく、食器棚の食器が数枚割れただけでした。

まさか、シティライトのある兵庫区があれほどの被害をうけているとは思ってもせず、子どもを置いて車で馬場街道を南に向かい出勤をすると平野あたりで街の様子がおかしいことに気がついたので。信号が消え道路はひび割れており、アパートや家が倒壊しています。

これはただ事ではないと、作業所とお店に急ぎました。建物は無事でした。

次の日から利用者さんや職員ボランティアさんたちの安否確認や訪問を始め、全員無事だった事を喜びました。

地震の被害の全容が分かるにつれ全国からボランティアが集まり、いち早く公園のテントから障害者生活支援に奔走した被災地障害者センター「たくと」、障害者救済本部、大阪市従業員労働組合青年部のみなさんには本当にお世話になりました。

当時の代表半澤照子さんは、3歳でポリオに感染し車いす生活で、小学校の避難所に避難しましたがトイレに行けず困り、結局電気もガスも水も止まった市場の2階の自宅に帰らざるをえませんでした。

そんな中、大阪市従業員労働組合のみなさんが船で大阪のお風呂につれて行って下さり大変嬉しかったと後々まで語っていました。その後、困った時はお互い様と、近くの公園に建設された仮設住宅の支援に入り、障害者の自分たちにもできる事があると、仮設住宅解消後も作業所で元住人やボランティアと食事会やさをり織講習会を開催し人と人がつながるといふ財産を私たちに残してくれました。

そして、当時3年生だった娘は、縁あって能登に住み今年の1月1日に能登半島地震で被災。29年前に支援してくれた人たちが救援に入り、娘の家にも物資を届けて下さいました。ここでも人と人のつながりに助けられたのです。

人のつながりに感謝をし、これからもゆめ風基金を応援していきたいと思っています。

## ■ゆめ風基金30年記念イベントのお知らせ

- 日時：2025年5月25日(日)14:00開演
- 会場：大阪府教育会館 たかつガーデン8F
- 参加費：資料代として1000円（ZOOMでもご参加いただけます。）
- 内容：基調講演 室崎 益輝さん

能登半島地震パネルディスカッション（被災地より3名お招きします。）

小室 等さん、こむろ ゆいさんミニコンサート

※申し込みに関しましては、次号ゆめごよみ110号にてご案内いたします。（年明け1月頃にホームページでもご案内いたします。）

## ■応援団からこんにちは vol. 11

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集して下さる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第11弾！

## ●オハナ戦隊おうえんじゃー 参上！

ふくしまけんほんぐらし  
(福島県本宮市)

とくていひえいりかつどうほうじん  
特定非営利活動法人オハナ・おうえんじゃー

りじちやう ふじもと まこと  
理事長 藤本 真



わたし  
私たちオハナ・おうえんじゃーはひがしにほんだいにんさい  
東日本大震災から1年後の2012年3月からスタートした  
事業所です。障がい児通所支援を中心に事業を行い、現在は3か所で児童発達支援と放課後等  
サービスおこなの事業を行っています。

「楽しみながら」をモットーに「誰もが明日も来たい」場所を創ることを目的に「地域啓発」や  
「関係機関との連携」を大切にしております

- ▷ 和太鼓チーム（あだたら和（なごみ）太鼓）による地域イベントへの出演。
- ▷ 地域 FM で月1回のラジオ番組「オハナ戦隊おうえんじゃー」で活動の紹介。
- ▷ 地域保護者向けの勉強会を、行政・関係機関の協力を得ながら毎年実施。
- ▷ 学校や保育園で安定して過ごすことを目的としたスタッフの派遣事業等の取り組みをしま

す。  
事業開始当初は、なかなかうまくいかなかった啓発や連携も、まいた種が芽を出し、少しずつ  
大きくなり成長せいちょうしてきていることを感じられるようになりました。

これからも地域の資源として、元気に活動していきたいと思えます。

さいご  
最後になりますが、ホームページをぜひ！オハナ戦隊おうえんじゃーがお待ちしています。

## ●ゆめ風基金さん ありがとう

ふくしまけん  
(福島県いわき市)

とくていひえいりほうじん  
特定非営利法人 なこそ授産所

りじちやう たかむら  
理事長 高村 トミ子



あひがしにほんだいにんさい  
あの東日本大震災のとき、ゆめ風のながさき  
長崎さんより「大丈夫？」と電話が入った。私はカラ元気で  
「大丈夫だよ」と返答したものの、心の中は原発事故と放射能の恐怖と大きな不安で押しつぶさ  
れそうだった。

施設は大きなダメージを受け、目玉商品「しあわせみそ」の作業が外ではやれず、急ぎみそ  
工房を作ったところだった。震災の揺れで、みその倉庫は床が落ちそうだった。見積を取った  
中古のプレハブで800万円かかるとのこと。頭を抱えた。そんなとき、ゆめ風さんより「支援す  
るよ」と温かい言葉にどんなに救われたことか。

つづいて、両親を亡くし行き場のない利用者がいた。グループホームを作ることに。公的助成を  
待つ訳にもいかず途方にくれた時、またゆめ風さんから声がかかった。よかった。

元旦、テレビを見ていたら能登半島地震が発生。被害の大きさに胸がつぶれる思いだった。13  
年前のあの震災と同じだと。あのとき、全国の多くの方から助けられたのだから、今度は私達の手  
を差し伸べる番だ…と。

さっそく、職員、父兄、ボランティアに相談。5年振りにチャリティーコンサートを開くこと  
になり活動を開始した。何度も打合せを重ね、10月よりチケット販売を始めた。

10月26日地元の公民館で開かれる。地元の多くの企業が協賛金を出してくれ目標以上の成果

が上がりそうだ。皆で目いっぱい楽しみ、益金を能登へ送ろう。協力してくれた多くの人に心から感謝である。

## ■2024年度確定申告で「寄附金控除」をされるみなさまへ

クレジットカードでのご寄付について、領収日が変わりました

2023年度の確定申告で「寄附金控除」をお考えの方にお知らせです。

昨年までクレジットカードでのご寄付をいただいた場合、領収書の日付はクレジットカードでの決済日ではなく、寄附金が「カード決済代行会社」からゆめ風基金へ入金された日付になるとお伝えしていましたが、国からの通知により昨年末から決済日が領収書の日付となりました。

2024年1月から12月までに寄付をいただいた方には、2025年1月に発行される臨時号に領収証を同封させていただきますので、よろしくお願ひします。

## ■カンパを頂いた団体 2024/07-2024/09

能登半島地震発災後から、たくさんの個人や団体の方々よりご寄付いただいております。心より感謝いたします。

- 6/30 津山ベース（登米市）
- 7/3 ゆめ風ネットきくがわ（菊川市）
- 7/4 わかば会（伊達市）
- 7/8 あかつきワーク保護者会（箕面市）
- 7/10 京都ダウン症児を育てる親の会トライアングル（京都市）
- 7/11 上福岡障害者支援センター21（ふじみ野市）
- 7/18 黒川こころの応援団（黒川郡）
- 7/19 八木一男福祉会（宇陀市）
- 7/19 百合の樹（横浜市）
- 7/25 いちごの会（大阪市）
- 8/6 ステップワン（伊勢市）
- 8/7 Chat seeds（白山市）
- 8/8 みのおチャリティーコンサート実行委員会
- 8/20 日本茶喫茶 楽風（さいたま市）
- 8/21 自立生活センター松山（松山市）
- 8/22 草の根共生会（東大阪市）
- 9/10 草の実家族会（札幌市）
- 9/17 みやぎアピール大行動実行委員会（仙台市）
- 9/20 錦保育園（登米市）
- 9/20 花の会（高槻市）
- 9/24 いーはーとーぶ（さいたま市）
- 9/25 みやぎ身体障害者サポートクラブ（栗原市）

## 事務局の動き 2024/7~9

2024年7月から9月の動きを一部ご紹介します。

毎週火曜日 能登半島地震支援会議

- 7月1日 おおさか災害ネットワーク（以下OSNと略す）定例会
- 7月1日 関西定期刊行物協会総会
- 7月3日 BCP研究会
- 7月7日 ゆめ風基金チャリティコンサート（箕面市にて開催）
- 7月8日 理事会
- 7月10日 大阪救済本部会議
- 7月12日 茨木障害者事業所連絡会講演
- 7月17日 童夢KANSAI実行委員会
- 7月30日 障害者政治ネットワークとともに国に能登半島地震についての要望書提出
- 7月31日 JDF能登半島地震支援センター連絡会議
- 8月1日 OSN能登半島地震情報連携会議
- 8月5日 ゆめごよみ108号編集会議
- 8月6日 理事会
- 8月7日 BCP研究会
- 8月21日 ゆめごよみ108号編集会議
- 8月30日 JDF能登半島地震支援センター連絡会議
- 9月4日 大阪府災害連携会議
- 9月4日 BCP研究会
- 9月6日 OSN能登半島地震情報連携会議
- 9月11日 大阪救済本部会議
- 9月12日 理事会
- 9月13日 産経新聞厚生文化事業団講演
- 9月17日 東住吉区講演
- 9月25日 精神障害者を支える元気の会講演
- 9月29・30日 前代表牧口 一二さん通夜・葬儀

## ■豪雨災害で被災された障害者に「お見舞金」をお届けします

2024年9月21日から23日にかけて石川県能登半島で発生した豪雨災害は、14名の死者を出すとともに、9か所の仮設住宅が床上浸水となるなど、大きな被害をもたらしました。

1月の地震による避難生活からようやく仮設住宅に移った人々を、再び苦しめる結果となりました。

ゆめ風基金では豪雨の直後から情報を集め、6月に事務局メンバーが訪問した輪島市の「もんぜん楓の家」や、能登町の「やなぎだハウス」などがひどい被害に遭ったと聞きました。輪島市の「一互一笑」の障害のあるお子さんがいる職員も豪雨被害に遭い、自宅に住めない状況です。同じく輪島市の「あすなろふたばぱいんの会」で

ゆめ風基金



民家になだれ込む土砂

2024年9月22日北國新聞より

2024年9月22日北國新聞より

は、職員も被災するとともに、利用者が住んでいるところが豪雨で孤立集落となり、一時連絡が  
とれなくなったなど、心配な情報が次々に舞い込んできました。

新聞報道でも、仮設住宅に住む女性が「何カ月も体育館のマットを布団にして生活してきて、や  
っと柔らかい布団で寝られると思っていたのに、今回の豪雨で布団が完全に泥水につかってしまっ  
て、あまりにもひどい」と嘆いておられました。

日本障害者フォーラムの会議では「輪島の精神障害者の方が地震で自宅に住めなくなり、一旦  
は避難所に行きましたが、その後、入れるグループホームが見つかり、そこを居場所としていまし  
た。今回の豪雨でグループホームが被災し、そこも住めなくなり、またもや避難所へと逆戻りの生活  
をしているそうです」と報告がありました。

ゆめ風基金では、地震と豪雨の両方の被害を受けた人々を案じ、被災地の障害者世帯へお見舞  
金を出すことを決定しました。見舞金の額は10万円です。ただ、ゆめ風基金では現地の確認ができ  
ないため、現地の団体に推薦団体となってもらい、推薦団体を通じてお見舞金は渡されます。西日本  
豪雨の時も同様の手法を取りましたが、これは普段さまざまなサービスとつながっていない人たち  
を地元のサービスにつなげ、被災地での支援がいつでも受けられるようにすることが、この見舞金  
のもう一つの意義だからです。

震災の復興もままならない中、同じ年に豪雨災害が起き、能登の人たちは本当に大変な思いをさ  
れていますが、少しでも手助けとなるよう尽力していきます。

## ■被災障害者へのご支援ありがとうございます！

### 豪雨により更なる被害…度重なる苦境

2024年元旦に発生した能登半島地震発災から1年を迎えようとしています。発災後より、様々な  
団体や個人の方よりたくさんの救援金が届いております。いただいた救援金の内、約4600万円

(9月末時点)を、被災地への救援物資の購入、被災した  
福祉事業所の修繕などの費用として届けさせていた  
きました。心より感謝申し上げます。

9月21日奥能登地方では豪雨による河川の氾濫、土砂災害、  
浸水など甚大な被害が出ました。今後も長期に渡る支援が  
必要です。引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします！



普段は静かな流れの南志見川は姿を変えた

2024年9月23日毎日新聞より

## ■能登半島地震報告集

大地震後、私たちはこう生きてきた

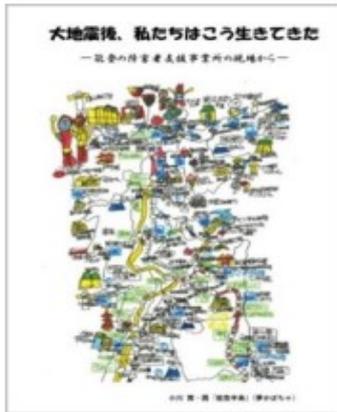
一能登の障害者支援事業所の現場から一

ゆめ風ネット加賀では、新しい取り組みとして「のとからの風」展と称し、パネル展を開催して  
います。また、被災した能登の23の福祉事業所の震災当時の取り組みなどをまとめた  
『大地震後、私たちはこう生きてきた』が出来上がりました。

1人でも多くの人にこの冊子を手にしていただき、能登の人たちを襲った災害の大きさと、そこから立ち上がる人たちの歩みやその人たちの思いを、しかと心に刻んでいただけたら、と思います。～「はじめに」より抜粋～



「のどからの風」展の様子



1 冊子制作サービス多機能型事務所 さざなみ

所在地	石川県能登町大野町1-1-1
事業内容	冊子の企画・制作・印刷・配送、写真・動画撮影・編集、WEB制作・デザイン、印刷・複製、写真・動画の加工・編集
主な事業内容	冊子制作サービス、写真・動画撮影・編集、WEB制作・デザイン、印刷・複製、写真・動画の加工・編集
代表者	代表取締役 佐藤 孝一
連絡先	〒924-0001 石川県能登町大野町1-1-1 Tel: 0764-44-0001 Fax: 0764-44-0002 E-mail: sasazami@sasazami.co.jp

冊子制作の状況

冊子制作の状況は写真で確認することができます。ある冊子の様子や制作の状況は冊子制作の状況を確認することができます。

大野町（大野町）

大野町は、石川県の能登半島に位置しています。大野町は、能登半島の中心地であり、観光地としても知られています。大野町には、大野町立大野小学校、大野町立大野中学校、大野町立大野高等学校などがあります。大野町には、大野町立大野小学校、大野町立大野中学校、大野町立大野高等学校などがあります。

大野町立大野小学校

大野町立大野中学校

大野町立大野高等学校



1冊500円 (A4版 全96 ページ)

送料：1冊50円、2冊80円、3冊110円、4冊以上の場合はお問い合わせください。

ご注文方法：お名前・お届け先・電話番号・希望冊数を、お電話、メール、FAX いずれかの方法で、ゆめ風基金までご連絡ください。

## ●会計報告 (別紙掲載)

2024年もあたたかいご支援、本当にありがとうございました

そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2024. 7-2024. 9

▼4月に能登へ行きました。微力だけど無力ではなかったです (登米市)

▼年金暮らしになり、気持ちだけですが… (新宿区)

▼永さんの御命日。いつまでも繋がっていたいです (川崎市)

▼こんな世の中に、怒りをおぼえるばかりで、何も出来ない無力な自分に恥じるばかりです (武蔵野市)

▼能登で 妹 夫婦が被災。70日間の避難所生活でしたが全国の皆様にお世話になりました。ありがとうございました。何もかもがこれからですが「無事」に感謝の日々です (奈良市)

▼7月7日の永さんのお命日にライブをしました。その売り上げから送ります。能登のために少しでもお役に立てましたら (鎌倉市)

▼ももくり送迎基金への寄付をお願いします (茨木市)

▼ガザの障害者の方々への支援に充てていただければ幸いです (渋谷区)

▼能登半島の地震、毎年起こっている豪雨による被害、山形、秋田での豪雨… ほんのわずかですがお役に立てたらと思います (八王子市)

▼生きる事をあきらめないで (秋田市)

▼当会で集めた募金です。少しでもお役に立てれば幸いです (白山市)

▼夏まつりでの家族会バザー売り上げから送金させていただきます (札幌市)

▼少しでも困っている人が安心して暮らせる夜の中になりますように (川崎市)

▼パレスチナの人達の事を思うと、余りの事に胸がつぶれる想いです。いつになったら平和が訪れるのか、何もしてあげられないもどかしさで。せめて夢風にたくしてガザに届きますように (松本市)

▼この国は国民を見捨てていますね。能登半島地震に使って下さい (練馬区)

▼私 もいろんな方から支援を受けています。ギリギリ生活をしてはいますが私 もだれかの役に立てればと思います (名古屋市)

▼困っている人がほっと一息つけますように！ (龍ヶ崎市)

▼被災された方々が一刻も早く安心した生活に戻れますようお願い (川崎市)

▼戦争がなくなりますように!! (荒川区)

▼「知らなかった世界」を読み私も多くの善意の人々の存在を知り救われる思いでした (横浜市)

▼私 も障害者ですが少数ですがお送りします。10月で90歳になります、長いおつき合いになりましたね (池田市)

▼なかなか進まない能登の復興、老いた私に出来るのはこんなこと (倉敷市)

▼能登半島地震と大雨被害をうけた皆様のために、送ります (札幌市)

▼石川県の障害者施設の早い復帰を切に望みます (高槻市)

▼茶和会の折、この基金の話 を伝えたところ、入間市80才代よりは是非にと1万円預かりました。次々と、大災害が発生しています、わずかですがお役立て下さい (入間市)

▼更に息をのむ大雨災害に「心が折れる」と。それでも何かしてゆくしか…その姿に心うたれ、何か応援したいです (大阪市)

▼今年も障碍者であった父の命日を迎えます。例年同様に、感謝の気持ちと障害をお持ちの方への応援を送らせて頂きます (品川区)

## ●編集後記

▶まきぐち いちじ (まき) さんとは 50 年近い付き合いだった。障害者問題誌『そよ風のように街に出よう』の、彼が全国の障害者を訪ねる企画では、たいてい私が運転手兼カメラマンとして随行した。キリスト者の彼と無神論の私 はしばしば意見を異にしたが、一緒にいると気が休まった。彼が遺したものについては、友人の輪に加わって私 も向き合わねばならないが、今はただ喪失感に身を沈めている。▶能登半島地震の衝撃で始まった今年も、幾多の自然災害に加えて愚かな権力者たちが始めた戦争によって多くの命が絶たれた。人の手で防げないものは確かにあるが、防げるものも実はたくさんある。来年こそ、それを実証する年にしたい。(小林)

## ゆめ風基金の SNS やウェブサイト

Facebook  
yumekazefund



YouTube  
@user-jt6wo9lk8q



Instagram  
yumekazek



Website  
yumekazek.com



		前回報告残高 2024年6月現在	この3ヶ月の動き 7月から9月まで	今回報告残高 2024年9月現在	
収支計算書	収入の部	会費収入	13,947,001	2,121,997	16,068,998
		寄付金収入	22,548,945	3,498,749	26,047,694
		臨時寄付金収入	21,367,430	619,114	21,986,544
		助成金収入	0	0	0
		事業収入	588,654	234,827	823,481
		雑収入	286,262	2,609	288,871
		貸付金返済収入	0	0	0
		保証金返済収入	0	0	0
		預り金収入	901,354	388,247	1,289,601
		未収入金収入	111,000	0	111,000
		未払金収入	0	0	0
		合計	59,750,646	6,865,543	66,616,189
		支出の部	救援金支出	25,534,214	15,987,529
	救援活動支出		633,643	530,575	1,164,218
	貸付金支出		0	0	0
	基金拡大活動支出		287,158	84,431	371,589
	防災活動事業支出		311,000	45,190	356,190
	広報活動事業支出		1,332,426	481,444	1,813,870
	その他事業支出		313,080	188,260	501,340
	人件費支出		6,661,447	3,386,329	10,047,776
その他事務費支出	3,038,801		1,124,443	4,163,244	
預り金支出	819,528		647,686	1,467,214	
未払金支出	287,904		0	287,904	
固定資産購入支出	0		0	0	
保証金支出	0		0	0	
合計	39,219,201	22,475,887	61,695,088		
	差引：収支差額	20,531,445	△ 15,610,344	4,921,101	
貸借対照表	資産の部	基金特別会計預金	351,322,401	△ 11,086,395	340,236,006
		一般会計現金預金	5,429,646	△ 4,523,949	905,697
		[現金預金合計]	356,752,047	△ 15,610,344	341,141,703
		障害者貸付金	0	0	0
		有形固定資産	416,152	0	416,152
	その他の資産	1,065,966	0	1,065,966	
	合計	358,234,165	△ 15,610,344	342,623,821	
	負債の部	未払金	0	0	0
		預り金	380,844	△ 259,439	121,405
		その他の負債	0	0	0
合計		380,844	△ 259,439	121,405	
	差引：正味財産	357,853,321	△ 15,350,905	342,502,416	

脚注 1. 今回は7月から9月までの3ヶ月間の報告です。  
2. 救援金は8件の支払いがありました。  
3. その他は特に大きい変動はありません。

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風 WEB サイトとブログに掲載しています

東日本大震災

350,127,104円

2016年熊本地震

55,598,387円

2018年西日本豪雨

45,164,095円

2024年能登半島地震

46,520,059円